

関連病院の施設紹介ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 金沢大学 医薬保健研究域 医学系 脳神経内科学 公開日: 2025-06-30 キーワード: 作成者: 金沢大学 医薬保健研究域 医学系 脳神経内科学 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/0002002968

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



[9] 関連病院の施設紹介

独立行政法人 国立病院機構 医王病院

当院 310 床のうち、約半数が脳神経内科（神経難病，慢性筋疾患など）であり、脳神経内科医は 5 名（駒井、石田、高橋、本崎、山口）で診療にあたっています。以前は「在宅療養を支援し推進する」方針から、長期療養を目的とした入院には消極的な時期もありましたが、現在は長期療養目的の方もお引き受けしています。対象となりそうな患者さんはぜひご紹介ください。

医王病院の 2024 年を振り返りますと、、、

①なんとといっても元旦の能登半島地震

当院はほとんど被害がなく、十数名の被災された神経難病患者さんの入院をお引き受けしました。搬送中の病状悪化や災害関連死もなかったことは幸いでしたが、ご自宅に戻ることができた患者さんは一部です。また、職員の中に能登出身者は非常に多く、ご家族が亡くなられた方、実家が損壊した方、里帰り中に被災して数日避難所にいた方あり、本当につらい災害でしたし今も復旧途中です。災害時の当院の役割は神経難病患者さんの診療ですが、今回は被災された方々の状況を十分把握できませんでした。今後の課題です。

②県から「難病診療連携コーディネーター」が委託され「なんびょう診療連携室『ランプ』」が立ち上がりました

都道府県ごとに「難病診療連携コーディネーター」の設置が義務付けられているにもかかわらず、石川県はなんと最後から 2 番目の設置県となりました。当院にコーディネーター 1 名が専従となり、今後在宅診療や災害に関する講演会、重症在宅療養者の県内病院へのレスパイト入院（災害時に備えてのお試し入院）等を調整していく予定です。県内各施設におかれましてはご協力のほどよろしくお願いいたします。

③ブレインバンクが設立されました (https://iou.hosp.go.jp/about/brain_bank.html)

1 月に医王病院ブレインバンク設立となりました。これまでも病理解剖後標本を作成した残りの試料は保存し、教育や研究に利用させていただくことがありましたが、その体制をブレインバンクとして整えていきます。2024 年 3 月には 5 年ぶりに慰霊祭も開催いたしました。

それでは 2025 年もどうぞよろしくお願いいたします。

（文責：石田千穂）

独立行政法人 国立病院機構 金沢医療センター

当院は 554 床（一般 512 床、精神 42 床）で、金沢大学附属病院に隣接・精神神経科を持つ総合病院であり、地域医療支援病院、災害拠点病院で、血管病センターを有します。2024 年には創立 150 周年を迎えました。当科の活動は、通常臨床では、脳卒中やパーキンソン病関連疾患に力を入れています。また、臨床治験（アテローム血栓性脳梗塞急性期の XIa 阻害薬）、NHO 共同研究（京都医療センター主導、BAD 臨床研究）を行っています。2013 年からパーキンソン病体操教室 in KMC を開催し、2016 年から石川県人材育成事業でパーキンソン病研究会を立ち上げ、最近石川県立看護大学教授岩佐先生とコラボし、パーキンソン病体操教室を継続しています。今後は、歩行解析、神経免疫疾患などにも力を入れる予定です。また、2025 年 11 月 7～8 日に当院阪上院長が会長として、第 79 回国立病院総合医学会が金沢で開催される予定です。

（文責：坂尻顕一）



現在

石川県立中央病院

2024年は元日の能登地震とともに、当院の活動が始まった感じでした。即応チームは、同日中に活動開始し、また、津波を恐れて当院に避難されて来られた方も、少なからずおいでしましたが、発生が16時10分であったことから、病院本体として大きく活動し始めたのは、翌日からで、搬送されてくる被災者・患者の受け入れや、1.5次や2次避難所へ移る方のメディカルチェックと他院へ移すトリアージ、全国から応援に来られたDMATなどの拠点となるなど、災害拠点病院としての対応を余儀なくされました。能登の病院機能は、すべて失われたようで、2024年4月から当院で働くようになった加賀弥生先生は、当時能登町の宇出津病院で勤務しており、身をもって被災体験をされました。初期の患者搬送とできることと言えば簡単な処置や処方にとどまり、通電後もCT/MRIなど点検を要するためすぐには使用できなかつたり、手術室等のドアが歪んで開かなくなつたりで、それなりの診療が可能となったのは、2月下旬であったようです。生活面においても、病院には優先して給水されたものの、住まいでは断水が続き、トイレはなるべく病院で済ませ、入浴は自衛隊設営風呂を利用していたとのことでした。個人的には、地震をはじめとした天災とは無縁な地域と考えていた石川県で、このような規模の地震が起こったことは驚きであり、日本に安心できる地方はないのだと、改めて思いました。ただ、病院駐車場に多数並んだ救急車や消防車両は、多彩な県外ナンバーを表示しており、大きな災害であれば、いろいろなところからたくさんの方が助けにやってくるということが確かであることも、改めて実感しました。

病院の話に戻ります。当科入院患者の内訳については、相変わらず脳血管障害が数的に多いのですが、最近ではてんかん患者や中枢炎症性疾患、錐体外路疾患患者が目立つようになってきた印象があります。高齢や認知症で何とか自宅で過ごしていた方が、入院を契機に「もう自宅では無理」となるケースも多く、退院支援については、ソーシャルワーカーのみならず、看護師を投入して退院支援にあたる体制を数年前からとるようになっていきます。それでも、時に満床のため入院制限となることが生じていますが、免疫チェックポイント阻害薬など、がん治療の進歩によって外来で化学療法を受ける方も増えており、病院全体で抱える外来患者が増加していることが、背景にあるのかもしれませんが。神経疾患外来患者は、一般クリニックの先生には扱い慣れていない場合が多いことから、なかなか紹介が定着しにくいのですが、病院管理当局は、患者リストまで作成して外来患者削減を図っており、この点、同門の先生方のお力をお借りしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

2024年に良かったことが一つありまして、4月に、前述の加賀先生が新たな戦力として加わり、4名体制となりました。脳神経内科医不足の中にあつて、増員にご尽力頂きました金沢大学脳神経内科小野教授並びに当院岡田院長はじめ関係された皆様には、この場をお借りし感謝いたします。加賀先生は、自治医科大学のご出身で、当院で初期研修を修められた経緯があり、何とか彼女に続く先生のリクルートが出来ないか、科員一同になって今後も勧誘していきたいと思っております。

長々と書きましたが、これからどうぞよろしくお願い致します。

(文責：山口和由)



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

北陸病院神経難病病棟では、2023 年秋より短期集中リハビリテーション入院を開始しています。以前より患者様から外来リハビリの要望がありましたが、リハビリ専門医やスタッフ不足のため入院してリハビリを行うことにしました。対象は軽症から中等症の神経難病の方でリハビリ意欲のある患者様です。2～4 週間の予定で個別に目標を立てて1日2回1時間ずつリハビリを行っています。病棟看護師も情報を共有し、在宅療養に戻れることを前提に介助を行っています。経験豊富な理学療法士や作業療法士が担当しており、利用された方はリハビリの効果について大変満足されております。複数回利用されている方もいらっしゃいます。病院は自宅と異なりできることは限られていますが、患者様の要望も取り入れながら少しでも ADL の維持に努めていきたいと思っております。最近施設も充実し施設を選ぶ患者様も多いですが、病院ならではの治療に重点を置いた療養を今後も考えていきたいと思っております。入院形態として長期療養、レスパイト入院とともに皆様に利用していただけたら幸いです。

また、当院全体では行動制限最小化の取り組みが行われており、神経難病病棟においても「障害者虐待防止法」に基づき、チームで話し合いを行い身体拘束や安全ベルトなどできるだけ行わないように取り組んでいます。安全安心の療養環境を整えていきたいと思っております。

(文責：小竹泰子)

富山県立中央病院

富山県立中央病院は病床数 733 床を擁する地域の基幹病院です。病院は 9 階建てで、病棟からは立山連峰の雄大な景色が望めます。脳神経内科は常勤で島先生と松原の 2 人体制で診療しています。毎週水曜は小松先生、隔週金曜は坂下先生に大学から非常勤で外来をしていただいています。

富山県の救急は輪番制で、当番日は 4 日に 1 度程度です。脳卒中症例は脳神経外科と決めた脳卒中当番が対応し、痙攣発作、髄膜炎などは脳神経内科に診察依頼があります。脳神経外科は新潟大学からの派遣で、常勤の先生は 5 名おられます。脳神経外科とは週 1 回の脳卒中カンファレンスもあり、非常にディスカッションがしやすい環境であります。また、多くの救急医と ICU 専任医がいることも当院の特色で、常勤 2 人の我々は非常に助けられております。

2024 年は院内の勉強会で抗アミロイド抗体薬に関して講演する機会がありました。外来看護師は 1 名ですが、認知症認定看護師などの協力があり、当院でも積極的に抗アミロイド抗体薬を投与しています。

研修医は 1 年目と 2 年目で 40 名近くいます。脳神経内科ローテーションを希望してくる研修医は月 2 人まで受け入れており、ほとんど毎月ローテーションしています。金沢大学と富山大学の学生からもローテーションの希望があり、非常にやる気のある学生が来てくれます。頑張っている研修医や学生と食事会も積極的に行い、勧誘にも力を入れています。できる範囲で急性期病院の使命に応えようと思います。今後ともよろしく願いいたします。

(文責：松原慶太郎)



左から松原、島滝先生（研修医）、島先生、松田先生（研修医）、寺田看護師（外来師）
外来でクリスマス会後の 1 枚

富山市民病院

富山市民病院は、昭和 20 年 8 月 1 日の大空襲により、全富山市が壊滅した、その翌年の昭和 21 年 2 月に、富山市の保健衛生施設として、大手町に創設されました。その後、昭和 29 年に五福に分院が開設され、昭和 58 年に本・分院を統合して現在の病院となっています。国道 41 号線沿いの交通の便が良い場所に立地しています。地域中核総合病院として、市民の保健・医療・福祉を担っています。日本内科学会認定専門医教育病院、日本神経学会準教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院など、各種研修認定も受けています。

脳神経内科は、医師 4 人で、内科の 1 部門として診療に携わっています。専門外来の他、内科一般業務として、日中救急、富山市輪番救急なども分担しています。病棟は、脳神経外科、耳鼻咽喉科との混合病棟で、病床数は約 25 床です。脳血管障害が多く、脳神経外科と協力しながら、診療にあたっています。意識障害、頭痛、めまいなど救急外来からの呼び出しも多く、神経救急医としての役割も重要です。

(文責：林 茂)



富山市民病院のホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>も、ご参照下さい。

厚生連高岡病院

厚生連高岡病院は病床数 533 床を擁する富山県呉西地区の地域基幹病院です。呉西地区は富山市と同様に輪番制度を敷いており、夜間休日に関しては他病院と協力し交代制で急性期病院の役割を担っております。当院は呉西地区唯一の 3 次救急病院で、また 2 日に 1 回は当院が当番病院であるため、高岡市の神経救急の半数程度は当院で経験できるといっても過言ではないと思います。t-PA 適応の脳卒中やてんかん重積、ギランバレー症候群といった神経救急のほか、ALS やパーキンソン病といった神経変性疾患の症例もご紹介いただく機会は多く急性期疾患から慢性期疾患にかけて幅広く経験することができる大変勉強になる一年となりました。個人的には救急科の先生が常勤で複数名おられることで、コードブルーなど予期せぬ対応が必要な際にバックアップが非常に厚い点がとてもありがたいと感じました。

脳神経内科は常勤としては柳瀬大亮先生と吉村敬介の 2 人体制、非常勤としては毎週火曜に白崎弘恵先生、水曜に松本星貴先生に外来診療のご協力をいただいております。神経内科医はどうしても人員不足となりがちの中で、十分な症例数を経験でき、かつ経験豊富な先生方と相談・カンファレンスできる環境にあることは当院の大きな強みで、私を含め若手医師の経験を積む場として魅力的な病院であると強く思います。また近隣にも同門会の先生方をはじめ連携していただける開業医の先生も多く、大変心強く感じました。ご助力いただいた先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

高岡市街に目を向けてみると、国宝の瑞龍寺や高岡大仏など観光名所も多くさすが国宝瑞龍寺の天然木からは時の重みがにじみ出ていました。私は初めて高岡に赴任しましたが、静かで大変住みやすい街でした。特に庄川と立山を眺めながら散歩するのはとても開放的で楽しかったです。一方で高岡駅周辺を中心街にシャッターが多いことが気になりました。政治的経緯の詳細はわかりませんが素人目には、新幹線が停車する新高岡駅を高岡駅と異なる場所に作ったことが高岡市中心街の衰退に拍車をかけたように思います。本当に高岡駅に新幹線をもってこられなかったのか、高岡駅周辺の衰退は予想できなかったのかと疑問はありますが、新高岡駅周囲のイオンタウンや金沢など代わりに成功したところもあると思いますし政治には声の大きなものが勝つというところがありますので、それぞれの市民や国民がしっかり政治に目を向けておくことが必要なのだろうと感じました。衰退の流れそのものは高岡市に限ったことではなく北陸ひいては日本全体に同じことがいえると思いますので、人任せにせず何が最善かを個々人が考えていくことが重要な時代であると感じました。

(文責：吉村敬介)

[10] 金沢大学脳神経内科学および

金沢大学附属病院脳神経内科名簿

(2024年1月から12月)

教授	小野賢二郎
保健管理センター教授	吉川弘明
准教授	篠原もえ子
助教(教育医長)	池田篤平
助教(病棟医長)	坂下泰浩
助教(外来医長)	中野博人
特任助教(医局長)	小松潤史(4月から)
医員・大学院博士課程	柴田修太郎
医員・大学院博士課程	尾崎太郎
医員・大学院博士課程	島綾乃(10月から)
医員・大学院博士課程	多田康剛(4月から)
医員・大学院博士課程	村松大輝
医員・大学院博士課程	疋島貞雄
医員・大学院博士課程	南川靖太
医員・大学院博士課程	森誠
医員・大学院博士課程	碓井雄大
医員・大学院博士課程	吉村敬介(3月まで)
医員・大学院博士課程	吉延貴弘(4月から)
医員	進藤桂子(3月まで)
医員	清水愛(3月まで)
医員	黒阪暁穂(3月まで)
医員	野溝純香(3月まで)
医員	谷口優(4月から)
医員	田中快(4月から)
医員	松本星貴(4月から)
内科専攻医	原田和志(9月)
内科専攻医	大橋純頼(11月)

研修医	波 田 真 吾 (4-6月)
研修医	辻 口 優 太 (5月)
研修医	水 倉 俊 行 (6月)
研修医	岩 波 太 志 (8月)
研修医	西 野 優 也 (9月)
研修医	橋 本 丈 瑠 (10月)
研修医	岡 田 浩 平 (12月)
研修医	山 下 祥 平 (12月)
6年生選択臨床実習	高 枝 真 吾 (3月)
6年生選択臨床実習	島 倉 有 啓 (3月)
6年生選択臨床実習	瀬 島 崇 史 (4月)
6年生選択臨床実習	長谷川 あかね (4月)
6年生選択臨床実習	杉 下 翔 (4月)
6年生選択臨床実習	吉 野 賢志郎 (4月)
6年生選択臨床実習	久保田 丈 司 (4月)
6年生選択臨床実習	長 響 (4月)
6年生選択臨床実習	山 崎 真実子 (5月)
6年生選択臨床実習	河 合 優 真 (5月)
6年生選択臨床実習	原 口 葵 (5月)
6年生選択臨床実習	片 桐 駿 (5月)
名誉教授・教育教員	高 守 正 治
名誉教授	山 田 正 仁
客員教授・教育教員	井 口 保 之 (東京慈恵会医科大学教授)
客員教授・教育教員	中 原 仁 (慶應義塾大学教授)
教育教員	三 澤 園 子 (千葉大学准教授)
教育教員・診察協力医・協力研究員	岩 佐 和 夫 (石川県立看護大学教授)
教育教員・臨床教授・協力研究員	石 田 千 穂
臨床教授・協力研究員	駒 井 清 暢
臨床教授・協力研究員	坂 尻 顕 一
臨床講師	山 口 和 由
臨床教授・協力研究員	松 本 泰 子
臨床教授・協力研究員	高 橋 和 也
臨床准教授・協力研究員	柳 瀬 大 亮
臨床准教授・協力研究員	古 川 裕
臨床准教授・協力研究員	本 崎 裕 子

臨床准教授・協力研究員

協力研究員

協力研究員

協力研究員

協力研究員

協力研究員

協力研究員

協力研究員

島 啓 介

横 地 英 博

吉 田 光 宏

丸 田 高 広

野 崎 一 朗

森 永 章 義

池 田 芳 久

赤 木 明 生

検査技師（研究員）

検査技師

検査補佐員

後 藤 律 子

藤 村 久 子

二 木 千 咲

公認心理師

丹 羽 こず絵

教授秘書

事務員

事務員

事務員

事務員

外来受付

外来受付

洪 谷 晶 子

中 村 美有紀

佐 藤 美 樹

木 村 倫 子

次郎間 美 穂（3月まで）

蔵 谷 久 美（6月まで）

奥 田 華 代（7月から）